

いばらき未来基金 冠助成事業
2014年度花王・ハートポケット倶楽部 地域助成事業
報 告 書

2015年9月

花王・ハートポケット倶楽部

いばらき未来基金運営委員会





あらゆる人の居場所と出番づくりを応援

「花王・ハートポケット倶楽部 地域助成」申請受付中

茨城県新しい公共支援事業のモデル事業として 2012 年に誕生した「いばらき未来基金」は、地域の市民、企業などから寄せられた寄付を、新しい公共を広げる市民活動に役立てるため助成を行います。

このたび、花王グループ社員による社会的支援を目的とした「ハートポケット倶楽部」会員の皆様のご寄付を原資として、昨年に引き続き第 2 回の冠助成を実施することになりました。

趣 旨

誰もが住みやすい地域をつくるために、あらゆる人の居場所や出番を増やすという『茨城県新しい公共推進指針』¹に沿った市民団体の取り組みを募り、応援して「茨城の未来づくり」を広げるために本助成を行います。

主催者・運営者

主催： 花王・ハートポケット倶楽部、花王 株式会社

企画・運営協力：いばらき未来基金事務局（認定 NPO 法人 茨城 NPO センター・コモンズ）

助成事業

A. 自助グループづくり支援事業

課題を抱えた人やその家族・仲間が、課題を共有しながら、仲間を増やしたり、課題解決に役立つ活動を行うことを、グループの立ち上げ支援も含めて応援します。

（例）家族の病気や介護、子育て、仕事などに関する悩みや、震災で故郷を離れたなど、日頃孤立しがちな人によるサロン、体験の共有や発信、グループづくりなど

B. 「みんなの社会」モデルづくり支援事業

失われつつある人や地域の絆を創るために、従来の組織や活動に参加しにくい人が参加しやすくなるよう工夫した取り組みや、地域に交流の拠点をつくる活動、組織を超えた交流や新たな連携などの活動に助成します。

（例）空き家、空き校舎などを活用し、人が集える場づくり、地域で仕事やボランティアしたい人の活躍の機会づくり、異文化や異業種の交流による地域づくり

¹ < www.npocommons.org/topics/guideline.html >よりダウンロード可能。



助成対象団体

A. 自助グループづくり支援事業

5 万円／件（最大 4 団体を予定）

生きづらさを感じている人が主体となった活動の実績または計画があり、自分たちの課題を発信したり、仲間を増やそうとしているグループ

B. 「みんなの社会」モデルづくり支援事業 15 万円／件（最大 2 団体を予定）

活動実績や決算、役員、規約に関する情報を公開することができる団体で、活動実績があること。「あらゆる人に居場所や出番をつくる」、「人や地域の絆をつくる」、「協働で地域を良くする」など、「新しい公共」の考え方に沿った取り組みの計画を有している団体

※ 両助成とも助成対象に該当し、平成 26 年度中（平成 26 年 8 月 1 日～平成 27 年 7 月 31 日）に実施する活動にかかる費用を対象とします。

申込方法

助成を希望する団体は、別に定める申請書類を、いばらき未来基金事務局までお申し込みください。

申請期間

平成 26 年 5 月 26 日（月）～平成 26 年 7 月 20 日（日）（当日消印有効）

※ 期限を延長しました！

選考方法

第 1 次審査（書類選考）：いばらき未来基金運営委員会が設ける選考委員会で審議します。

第 2 次審査（投票選考）：花王・ハートポケット倶楽部の投票により助成先を決定します。

※ 『茨城県新しい公共推進指針』の具体化と、人の絆の広がりを重視して選考します。

※ 必要に応じ、助成申請者に対し提出資料の追加や訪問調査などを行うことがあります。

助成金の交付

平成 26 年 8 月上旬頃に贈呈式を実施します。その後、団体口座に銀行振込により交付します。

※ 個人口座にはお振込みできませんので、ご了承ください。

報告書の提出

助成を受けた団体は、日々の活動状況をいばらき未来基金事務局に随時報告するほか、活動終了後、指定の報告書をご提出いただきます。

申請・お問い合わせ



いばらき未来基金 事務局（認定 NPO 法人 茨城 NPO センター・コモンズ）

〒310-0022 茨城県水戸市梅香二丁目 1 番 39 号

☎：029-300-4321

FAX：029-300-4320

e メール：office@ibaraki-mirai.org

ウェブサイト：www.ibaraki-mirai.org

助成対象となった事業

助成コース	事業名	団体名	代表者役職名	代表者	助成金額
A. 自助グループづくり支援事業	双葉台地域における学習支援事業	茨城大学学生団体 Branche	代表	今野 敬太	5 万円
B. 「みんなの社会」モデルづくり支援事業	障害者の学びの場「専攻科」をつくるスマイル・プロジェクト	NPO 法人 茨城の専攻科を考える会	理事長	飯塚 忠	15 万円
	花とアートで美しく賑わいのあるつくばの玄関を演出する事業	NPO 法人 つくばアーバンガーデニング	理事長	井口 百合香	15 万円
	地域の生活困窮者セーフティネットづくりに向けた組織基盤強化事業	NPO 法人 まごころねっとわーく	代表理事	大學 早苗	15 万円



事業名	双葉台における学習支援事業
申請コース	A. 自助グループづくり支援事業
団体名	「学びと交流の秘密基地」(旧「学生団体 Branche」)
実施内容	● 日時 ① 第1回 平成 26 年 8 月 18~22 (13:30~17:30)、25~28 日 (10:00~17:00)、29 日 (13:00~17:00) 計 10 日間 ② 第2回 平成 27 年 2 月 16~3 月 3 日 平日: 16:00~19:30 休日 9:00~17:00 ● 活動場所 双葉台ショッピングモール ● 参加者 茨城大学学生 23 人 ● 対象者 双葉台小学校・双葉台中学校 ● 実施内容 夏季課題や自主学習などを大学生がフォローし、分からない点を教えることで、学習意欲の向上に努めた。また、学習支援のサポートだけでなく、高校・大学進学相談にも応じた。
申請書に記載した「目標」に対する実施「結果」	・学習機会の創出 高校受験では全員が志望校に合格し、進路選択の幅を広げることに貢献できた。 ・居場所作り 学習室開設中連日通う生徒も多く、学校外での居場所になったのではないかと感じる。先生や親よりも歳が近い大学生という立場であるため生徒もフランクに話してくれ、居心地の良い存在になれたのではないかと感じる。
申請書に記載した「目的」に対する「成果」や地域社会へのインパクト	・学習支援活動のモデル作り 今回は学内でボランティアを募集し、延べ 50 人以上の学生に参加してもらったことで学習支援活動の基盤を作れたのではないかと考える。告知活動においては双葉台小中学校や市民センターにも協力していただき、今後も地域と一体となった活動を続けていく。また、活動に関する記事が新聞に掲載されたことにより多方面から反響の声を頂いた。
申請書に記載したように、市民の新たな「居場所」や「出番」をつくることに	● 双葉台地域の子どもたちに学習の機会を与えることが出来た ● 子どもたちの居場所づくり ● 大学生のボランティアを活用した

つながりましたか？	
事業実施後の展望や 新たに見えてきた 地域課題	参加した生徒から次回開催を望む声があり、今後も継続して学習室を開催する予定である。その上で ・他学部との連携 教育学部や理系学部の学生にも参加してもらい、指導の質を高める ・より地域に根差した活動 学習支援に興味を持つシニア世代や地域住民の方の協力も得ながらより充実した学習支援活動にする を課題とする。
花王・ハートポケット 倶楽部へ一言	この度は、活動を支援していただきありがとうございました。 この活動を今後も活動を継続していこうと思います。
自己評価	A. 目標を超える成果を得ることができた



事業報告

2015 年 8 月 16 日

NPO 法人茨城の専攻科を考える会

- ▶
- 2012 年 11 月 「日曜専攻科」を立ち上げる 12 月「忘年会」カフェ・ベルガ
- 2013 年 1 月 カレーライス作り 3 月 カラオケ 4 月 活動内容話し合い 6 月 バーベキュー
- 7 月 ボウリング 8 月 韓国視察 茨城から 9 名 9 月 映画鑑賞 カレッジ早稲田見学
9 月 NPO 設立準備 10 月「専攻科」学習会（土浦市）11 月 専攻科を考える会設立総会 12 月 NPO 設立申請
- 2014 年 1 月チャレンジフェスティバル 守谷市との協働協議開始 「障害者権利条約」県条例
2 月 2 日 「専攻科」学習会（守谷市）
2 月 20 日 「特定非営利法人茨城の専攻科を考える会」認証・設立完了
3 月 3 日 「特定非営利法人茨城の専攻科を考える会」登記完了
8 日 理事会 13 日 「あすなろ園」事務研修 16 日 日曜専攻科（クッキー作り）
27 日～28 日 和歌山学びの作業所視察（シャイン・ゆい・フォレスクール）
4 月 27 日 日曜専攻科「バスケットボール」 28 日 地域ラジオ放送出演
29 日 NPO 法人茨城の専攻科を考える会理事会・総会・第 11 回全国専攻科研究集会事務局会
5 月 17 日 「専攻科」学習会（つくば市） 24 日 日曜専攻科「サツマ芋の苗植え」
25 日 守谷市市民協働プレゼンテーション 茨城新聞取材
6 月 11 日 結城支援学校訪問 16 日 つくば支援学校訪問 20 日 守谷市協働会議
25 日 NPO 法人助成金申請セミナー 28 日 茨城県 NPO 応援ワークショップ
29 日 「専攻科」学習会（結城市）
7 月 5 日 全専研事務局会 12 日 バーベキュー 23 日 理事会打合せ
28 日～30 日 韓国視察 いばらき未来基金・花王助成金申請 パルシステム申請
8 月 3 日 全専研事務局会 19 日守谷市協働会議 9 日～全国障害者問題研究集会 in 滋賀
23 日～24 日 全専研指導者研修会 30 日 まなーるもちの木オープンキャンパス
9 月 7 日 染色 15 日 第 1 回全専研 in 茨城実行委員会 20 日 守谷市市民大学講演
特殊教育学会で報告 26 日 パルシステム茨城第 3 次ヒヤリング
10 月 4 日 山梨市講演 18 日～19 日 SNE 学会発表・企画運営全 19 日 専研事務局会
21 日 NPO 労務セミナー 23 日 いばらき未来基金・花王「モデル事業」助成贈呈式
26 日 日曜専攻科「芋掘り・焼き芋」 27 日 中間的・若者就労支援 28 日 守谷市会議
11 月 3 日 第 2 回全専研 in 茨城実行委員会
4 日 守谷市協働会議（株）カスミ訪問（賛助金要請）
5 日 生協パルシステム茨城くらし活動助成基金贈呈式 キリン財団助成金申請
13 日 全専研事務局会 14 日 協働推進室打合せ 18 日 NPO 会計セミナー
26 日 つくば支援学校事業者説明会 27 日 大阪市山口淑子基金助成申請
29 日 市民活動交流会 30 日 司会打合せ 晃陽学園訪問（賛助金要請）
12 月 6 日 第 3 回全専研 in 茨城実行委員会

- 12月8日 中央ろうきん助成金セミナー（東京） 9日 常陽新聞取材 10日 守谷市協働会議
- 12日 前日打合せ・成田送迎・歓迎会
- 12月13日～14日 第11回全国専攻科（特別ニーズ教育）研究集会 in 茨城大会
- 21日 第11回全国専攻科（特別ニーズ教育）研究集会 in 茨城大会の現地 総括会議（土浦）
- 22日 NPO 法人「資金確保」講座・県外視察・就労支援協議会打合せ
- 1月10日 「ろうきん助成金」申請書・発送
- 24日 生活協同組合パルシステム茨城から2名、当法人へ来訪・調査・ヒアリング
- 25日 日曜専攻科「チョコレート作り」 全専研茨城大会の打ち上げ（カフェベルガ）
- 27日 守谷市との協働事業推進会議 31日 全専研茨城大会の打ち上げ（荒川沖駅前）
- 2月11日 事務局会議「次年度計画・財務・損益シュミレーション」（谷田部）
- 21日 日曜専攻科「チャレンジアート参加」カピオ シャイン発表会の講評（和歌山）
- 22日 相談活動セミナー（京都）
- 3月15日 守谷市との協働締結記念事業「進路」講演会 日曜専攻科「バスケットボール観戦」
理事会「2014年総括・中長期計画・2015年事業計画」（つくば）
- 16日～17日 福祉施設県外視察（愛知：「NPO 法人地域福祉サポートちた」三重：「県立こころの
医療センター（長医師）豊橋：「いるかビレッジ」Café/障害者A型施設等・ライフ施設
静岡：「NPO 法人浜松ネットワークセンター」障害者就労継続支援・ジョブコーチ養成
- 25日 茨城セーフティーネット支援交流会（水戸）参加：県健康福祉部健康福祉課 副参事
県健康福祉部子ども課課長・社会福祉士・県社会福祉協議会・県内福祉系 NPO 法人 35
- 29日 世界自閉症啓発デー 水戸市内パレード
- 4月2日 世界自閉症啓発デー行動 県立古河一高職員研修「生徒理解」～不登校・発達障害等～
- 12日 日曜専攻科「ピクニック」（洞峰公園） 理事会（つくば）
- 21日 つくば特別支援学校訪問・校長、進路指導主事との懇談
- 5月12日 茨城県障害福祉課事前協議 16日 発達保障セミナー（東京）
- 17日 「専攻科」学習会（つくば） NPO 法人茨城の専攻科を考える会総会
- 6月3日 県障害福祉課（自立支援担当）協議 5日 求人情報交換会（中間的就労の必要性訴え）
- 11日 古河ハローワーク（中間的就労の必要性訴え）
- 21日 日曜専攻科「カラオケ」 理事会
- 30日 パルシステム茨城の訪問
- 7月 8日 野田・柏特別支援学校訪問要請 境西特別支援学校訪問要請
- 15日 伊奈特別支援学校訪問要請 19日 日曜専攻科「B.B.Q」（守谷市）
- 22日 伊奈・境西特別支援学校訪問要請 23日 野田・柏特別支援学校訪問要請
- 8月2日 「専攻科」学習会 理事会 8日～9日 障害者問題研究集会（岐阜）
- 12日 中間的就労を担うジョブトレーナー研修会

第三の学びの扉を開けよう!

—ともに学びあう喜びをすべての子ども・青年に



▲第10回福岡大会 交流会

●障がいのある青年は、18歳で特別支援学校を卒業すると、一般就労（企業など）か福祉的就労（作業所など）の違いはあれ、ほとんどが社会へ出るしか道がありません。しかし、障がいがあるからこそ、ゆっくり時間をかけて学び、様々な体験を積み、人生を豊かに生きるための土台を作ることも大事です。そうした願いをかなえるのが専攻科で、福祉の場でかなえたのが「学びの作業所」です。この「学びの作業所」が、今全国に広がっています。

障がいのある青年にも、自分の人生の主人公となり、自分の願い・目標に向かって、たくさんの体験をしながら学び、**かけがえのない青年期を過ごさせたい!** そんな願いを持つみなさん、**集まろう茨城に!**

21世紀の今日、20歳までの専攻科教育の保障の扉を開く取り組みが始まっています。この扉の向こうには、人生の学びへの自由な道が大きく開かれます。すべての子ども・青年に**生涯にわたるハッピーな学びの実現**を目指しましょう。

日程

12:00		13:00	13:30	15:00	15:30	16:40	17:00	19:00
12/13 (土)		受付	オープニング 基調報告	第1部 全国の専攻科・学び の作業所の発表	休憩	第2部 国際シンポジウム	夕食交流会	
9:00		9:15	12:00		13:00	14:00	30	15:00
12/14 (日)		受付	分科会 青年フォーラム		昼食	分科会 青年フォーラム	閉会 全体会	総会



▲第10回福岡大会 全体会



▼第10回福岡大会 仲間の発表



▲和歌山 きのかわ福祉会「シャイン」

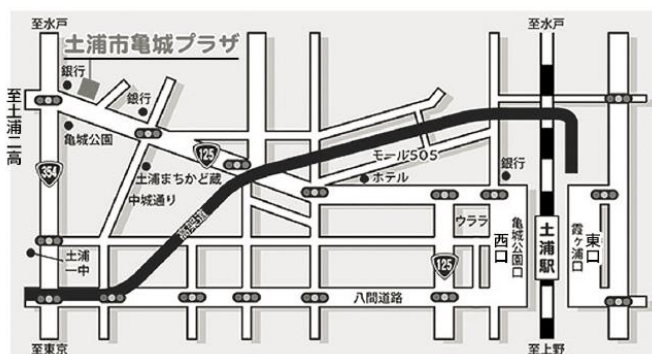


▼和歌山 きのかわ福祉会「シャイン」



会場 土浦市亀城プラザ

〒300-0043 茨城県土浦市中央2丁目16-4
TEL: 029-824-3121 FAX: 029-824-3125
電車▶JR常磐線「土浦駅」下車西口より徒歩15分
または西口バス乗り場3番、5番、6番より
関東鉄道バス「亀城公園前」下車
西口バス乗り場1番より
まちづくり活性化バス キララちゃん B-2
コース（市役所循環）「亀城公園前」下車
車▶常磐道桜土浦ICまたは土浦北ICより約10分
＊駐車場は、土浦第二高等学校（会場まで徒歩
5分）をご利用ください。ただし、午後
5時までです。



▼会場周辺図

■ 全体会（一日目）

● オープニング、基調提案

● 第1部 全国の専攻科・学びの作業所の発表

- 全国の仲間の報告「広がれ学びの場ー専攻科と学びの作業所」
- 茨城の報告 まなーるもちの木

● 第2部 国際交流ー親の願いが制度を拓く

- ・ 韓国の親の会コヤン市支部長チョ・インスクさん
「韓国の専攻科の現状と親の運動」
- ・ 和歌山・出口幸三郎さん（紀南養護専攻科を考える会、フォレスクール）
「私たちの作ってきたものー専攻科設置・学びの作業所づくり運動」
- ・ 司会 福原美紀さん（茨城の専攻科を考える会）

● 夕食交流会



チョ・インスクさん



出口幸三郎さん



福原美紀さん

■ 分科会&講座&青年フォーラム(本人参加)（二日目）

	分科会名	共同研究者	報告者
1	専攻科・学びの作業所の教育実践 (重度・重複)	猪狩恵美子（福岡女学院大学） 澤谷常清（岩手・三愛学舎）	和歌山・フォレスクール 三重・聖母の家学園 大阪・シュレオーテ
2	専攻科・学びの作業所の教育実践	坂井清泰（大阪電気通信大学） 河南勝（兵庫・エコールKOBE）	愛知・見晴台学園 東京・カレッジ早稲田 茨城・まなーるもちの木
3	専攻科卒業後の生活と学び	辻正（三重・聖母の家学園） 藪一之（愛知・見晴台学園）	愛知・見晴台学園大学 兵庫・カレッジアンコラージュ
4	専攻科づくり・学びの作業所づくり の運動	長谷川正人 （福岡・鞍手ゆたか福祉会） 出口幸三郎 （和歌山・紀南養護専攻科を考える会）	倉敷の専攻科を考える会 茨城の専攻科を考える会
5	家族が語る専攻科・学びの作業所で の学びと生活	田中良三 （愛知・見晴台学園大学） 立岡暁（専攻科滋賀の会）	各地
青年 フ ォ ー ラ ム	A なかまの分科会 青年が語る学びと生活	伊藤修毅（日本福祉大学） 新井田恵子 （全国障害者問題研究会）	◆報告者を募集しています！ この表の下をご覧ください。
	B スポーツをしよう (バスケットなど)	スマイル バスケットボールクラブ	
講 座	障害者の青年期の発達と支援	講師：小畑耕作先生 （大和大学）	

▲スマイル バスケットボールクラブ

◆青年フォーラム（本人参加）「A なかまの分科会 青年が語る学びと生活」での報告者を募集しています。

研究してきたことの発表、私の主張、歌やダンスの発表、特技や得意技の発表など、グループでも個人でも受け付けます。事前に発表の順番等を決めますので、11月30日（日）までに、下記あてに申し込んでください。

全国の仲間の参加を待っています。

申し込み先▶担当者：寺門宏倫 Eメール：coolfuelcoolengine@gmail.com

発表される方の名前・グループ名、連絡先、発表内容、時間、使う機器（パワーポイントなど）を記入してください。



2014年度花王・ハートポケット収支決算書

NPO法人 茨城の専攻科を考える会

摘要	借方	貸方	残高
助成金	150,000		150,000
会議費(現地実行委員会・全国実行委員会)		49,520	100,480
情宣広告費(チラシ・ポスター代)		73,116	27,364
日曜専攻科広告印刷費(パンフレット代)		28,100	△ 736
			△ 736

事業名	花とアートで美しく賑わいのあるつくばの玄関を演出する事業
申請コース	B. 「みんなの社会」モデルづくり支援事業
団体名	NPO 法人 つくばアーバンガーデニング
実施内容	つくばの玄関口である筑波エクスプレスつくば駅 A5 出入口周囲を花とアートでにぎわい空間を継続して創り出すための新たな試みとして他の団体や会員以外のアイデアを取り入れ演出する試みを実施した。 渚水車のリニューアルに向けての意見を集めるため、ライズ学園の若者たち、「みんなで花を植えよう」の行事の参加者、そして日頃の活動を共にしている会員に、駅前の渚水作業の手順を説明し、改善する点などアイデアを問いかけた。出されたアイデアをもとに、コミュニティガーデン花仲間で渚水車制作のミーティングを数回実施した。後日ホームセンターを会場に給水タンクや台車そして木材や塗料を販売委員に問合せながら、渚水車のイメージを形にかえていく作業に参加者一同で行った。 さらに景観のアート性アップを図るために、専門家に依頼することとして、正面プランター2 台をアートディワレント活動をしている自然生クラブに依頼した。 盛夏にむけリニューアル後に、渚水作業に従事する就労支援の取り組みを強化する話し合いを行った。
申請書に記載した「目標」に対する実施「結果」	駅前という公共空間を花とアートプランターの組み合わせ以外に渚水車にもアート性と作業手順の改善をはかることができ、作業するものの仕事への取り組みを意欲的にすることができた。リニューアルされたアートプランター、渚水作業風景で、さらに心豊かな景観作りが達成できた。初めて渚水車が登場した日は、駅前を通る人が笑顔で渚水風景を見つめてくれる姿と作業する青年の誇らしげな顔が印象的だった。 渚水車制作では新たな出会いを得られ、ものを作りあげる楽しさや喜びを毎週火曜日に会うコミュニティガーデンの仲間たちと共有することができた。
申請書に記載した「目的」に対する「成果」や地域社会へのインパクト	アート制作をした NPO 団体（自然生クラブ）からは、公共アートへの参加を喜ばれ、公共空間としての場を維持していくことの大切さを再確認できた。WS では既存の考えにとらわれず、生活の中ですでにつかわれている方法を応用するというアイデアに気づかされた。渚水行為のアイデアで冬場の辛い作業からの解放が期待できる。
申請書に記載したように、市民の新たな「居場所」や「出番」をつくることにつながりましたか？	TUG が就労支援する作業所帰りの青年（NPO 来夢ハウスからライフサポートセンター所属）が、快適になった渚水作業環境に喜び、週 1 回の渚水作業（16 時半～）を 2 回に増やした。渚水作業への応援ボランティアは近くに住む主婦が参加となったので、今後夏季にむけ、さらにグループをふやすために、渚水作業従事者の対象を広げ広報活動を展開していきたい。就労支

	援事業所の作業（9 時から 15 時半頃）にするには灌水時間帯と財源に問題があり、検討が必要となっている。
事業実施後の展望や 新たに見えてきた 地域課題	駅前の花壇環境や作業環境が快適になったことで、作業希望の声は聞こえているが、公共地の性格を考慮した事業費用捻出を考え、将来自立できる形を模索していきたい。 当初、花壇を予定していなかった場所のため給水設備等が無いことも灌水作業を困難にしている。今後は隣接のビル所有法人にも給水等で協力を仰ぐよう努めたい。
花王・ハートポッケ ット倶楽部へ一言	ガーデニングを趣味で終わらせない社会性のある取り組みであることをご理解いただき感謝しています。コミュニティガーデン花仲間は様々な経験を持ち寄り、互いに交流しながら「花の持ついやしの力」をいかした社会活動を行い、シニア世代になった今を、ささやかに健康に続けられることを願っている者たちです。 わたしたちは貴団体に大変感動しました。それは、花王・ハートポケット倶楽部の助成が決まってからでした。株式会社の花王ではなく、そこに働く皆さんの一人一人の社会意識がまちづくり人づくりへの寄付となり、わたしたちの所へ届いたということです。1 円たりとも無駄にできない。目的を遂げたいという思いを、当初よりもさらに高めてくれました。 そのような機会を与えてくださった皆さんに、仲間一同感謝しています。ありがとうございました。
自己評価	B. ほぼ目標どおりの結果となった



2015/02/06 12:14:18



2015/02/06 12:15:41



2015/03/13 16:36:07



2015/04/13 14:33:06



2015/04/24 17:27:12



2015/05/18 12:19:19



2015/05/18 12:19:06



2015/05/18 12:19:02



2015/06/02 9:47:03



2015/06/02 10:14:11



2015/06/02 10:15:45



2015/06/02 11:16:59



2015/06/02 11:27:45



2015/06/02 12:01:36



2015/06/16 17:17:49



2015/06/16 17:18:05



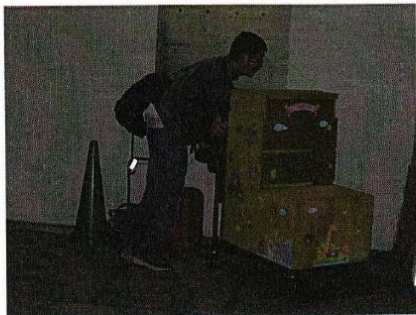
2015/06/16 17:19:23



2015/06/16 17:20:02



2015/06/23 13:25:11



2015/06/30 17:09:42



2015/06/30 17:09:59



2015/06/30 17:23:41



2015/06/30 17:34:31



2015/06/30 17:34:50

灌水作業の移り代わり

- 地域担当の教会の奉仕活動
つくば市紹介の給水栓を利用
(給水タンク保管所→給水所→花壇)
移動距離があり大変だったが、彼らの
心ねの優しさにカバー



2008 年 5 月

- 企業の社会貢献による退職者の地域活動
トラック積載の給水タンクと自宅井戸
の利用で灌水
朝の 5 時過ぎからの作業に感謝でした。



2009 年 8 月

- 教会の宣教師さんと TUG ボランティア
異なる曜日でボランティア作業。
季節の変わり目には灌水のコツを伝授



2010 年 8 月

- TUG が就労支援する青年といっしょに
作業を開始
矯正視力が 0,3 くらいのため、なれるま
で時間がかかりましたが、
今ではスムーズに作業をこなせるまで、
勘にも磨きがかかってきました。
欠席の無い作業に、ボランティアも応援
の甲斐があります。
すこしでも作業し易いようにと TUG
ボランティアは改良を重ねています。



2011 年 7 月



アート制作者の赤木君との偶然の出会い

駅前プランター花壇のプランターに自然生クラブの赤木主税さんに少しずつ絵を描いていただいています。プランターは直方体で、設置部分を除いて5面あります。絵はお礼ができるメドがたつたときにしかお願いできないのが残念でした。

過去には駅前花壇の中の座り空間として座面に描いていただいたのですが、花以上に景観に与えるアートの力の大きさに驚かされました。

そこで、より感動を与える景観を創出できるのではと、今回は、TXA5 出入り口の正面両サイドを飾る、花植えプランター2 個の周囲4 面ずつに絵を描いていただくことをお願いしました。

現在1 個は出来上がり花植え準備を待っています。後の1 個が、つくば美術館で行われていた「異才の芸術」展の会場で制作活動が続けられていました。赤木君はじめ数名がパフォーマンスを展開していました。TUGとしては、わたしたちのプランターがこのような場で皆さんに見つめられていることに偶然遭遇し驚きました。

しかし、赤木君がゆっくりと一筆一筆描き進めている姿に、こうして1 箱ずつ描いてくれたのかと思い、しばらく無言で見守ってしまいました。早く花が植えられるようにとは思いますが、一方で、自分のペースでお願いしますと言ってしまいました。

「自然生クラブのフェイスブックより」



TUGに属している1個目のプランター



花王・ハートポケット倶楽部 助成事業収支報告

日付	摘要	領収書No.	支出額		
5月14日	花植え培養土 10袋	1	2,130	花プランター費用	
6月1日	牛ふん堆肥 3袋	2	2,388	花プランター費用	
6月1日	マリーゴールド	3	1,540	花プランター費用	
6月2日	マイガーデン 3袋	4	3,006	花プランター費用	
6月9日	花殻摘み用ビニール袋	5	108	花プランター費用	
6月25日	アート制作費	6	24,000	アートプランター費用	
6月25日	アート材料費	7	10,000	アートプランター費用	43,172
2月23日	木工材料	8	4,759	灌水車制作費	
5月22日	ボンド&クリアシール	9	2,263	灌水車制作費	
5月21日	ラジオペンチ	10	108	灌水車制作費	
6月1日	給水タンク	11	14,800	灌水車制作費	
6月1日	ホースジョイント	12	1,307	灌水車制作費	
6月2日	軽量ブロック 4個	13	352	灌水車制作費	
6月8日	台車	14	23,652	灌水車制作費	
6月12日	仕上げ木材&塗料	15	8,338	灌水車制作費	
6月12日	木材加工	16	150	灌水車制作費	
6月12日	扉用つまみ	17	118	灌水車制作費	55,847
11月10日	稲葉弘行交通費	18	3,200	灌水&管理作業費用	
12月10日	稲葉弘行交通費	19	2,400	灌水&管理作業費用	
1月10日	稲葉弘行交通費	20	4,000	灌水&管理作業費用	
1月20日	ボランティア交通費	21	3,100	灌水&管理作業費用	
2月10日	稲葉弘行交通費	22	2,400	灌水&管理作業費用	
3月10日	稲葉弘行交通費	23	2,400	灌水&管理作業費用	
4月10日	稲葉弘行交通費	24	2,200	灌水&管理作業費用	
5月10日	稲葉弘行交通費	25	2,200	灌水&管理作業費用	
6月10日	稲葉弘行交通費	26	3,000	灌水&管理作業費用	
6月5日	作業駐車料金(北1)	27	220	灌水&管理作業費用	
6月16日	作業駐車料金(北1)	28	110	灌水&管理作業費用	
6月30日	作業駐車料金(北1)	29	110	灌水&管理作業費用	25,340
4月24日	お茶、茶菓	30	1,477	アイデアWS関連費	
6月29日	ライズ学園交通費(2月6日)	31	5,000	アイデアWS関連費	6,477
2月13日	学生のブログ作業交通費	32	3,600	広報費用	
2月27日	学生のブログ作業交通費	33	3,000	広報費用	6,600
1月9日	事務室駐車場使用料1月分	34	7,000	事務局費用	
1月12日	軽トラックガソリン	35	2,930	事務局費用	
1月30日	事務室料2月分×0.5	36	25,000	事務局費用	
2月10日	事務室駐車場使用料2月分	37	7,000	事務局費用	
3月10日	事務室駐車場使用料3月分	38	7,000	事務局費用	
5月14日	軽トラック自動車税	39	4,000	事務局費用	
5月22日	軽トラックガソリン	40	3,451	事務局費用	
5月30日	事務室電気代4、5月分×0.5	41	8,518	事務局費用	64,899
	支出合計		202,335		202,335
収入	花王ハートポケット助成額		150,000		
	自己資金負担額		52,335		
	収入合計		202,335		
	収支差額		0		

事業名	地域の生活困窮者セーフティネットづくりに向けた組織基盤強化事業
申請コース	B. 「みんなの社会」モデルづくり支援事業
団体名	NPO 法人 まごころねっとわーく
実施内容	地域における生活困窮者セーフティネット基盤づくりに向けた当法人の Web サイト (http://magocoro.net/) とリーフレット（別添参照願います。）を作成することができました。コンテンツとしては、当法人の理念、活動内容、活動協力への呼びかけ等になります。全体として大まかに生活困窮者の実態や自立支援とはどのようなものなのかが、多くの方々にわかってもらえるように工夫しました。web サイトではブログを活用しながら、これまでの取り組みや活動内容、生活困窮者の実態、今後の活動展望等の詳細について柔軟に記載していく予定です。
申請書に記載した「目標」に対する実施「結果」	web サイトやリーフレット作成までは実現しました。しかし、完成が遅れてしまったので申請書に記させていただいた、それを活用して協力者、会員増強、他団体・他機関との連携強化までの本格的取り組みは今後の課題とさせていただきたく思っております。
申請書に記載した「目的」に対する「成果」や地域社会へのインパクト	今後の課題となってしまいますが、作成することができた web サイトやリーフレットを活用して、より理解者、協力者等を増やし、今後さらに深刻化していく生活困窮者問題へ対応していく包摂型社会の一員となるべく尽力していきます。
申請書に記載したように、市民の新たな「居場所」や「出番」をつくることにつながりましたか？	こちらも今後の課題になってしまいますが、生活困窮状態のある人への理解者、協力者がより増えてくれば、これらの人たちとの接点生まれ生活困窮者が社会で「居場所」や「出番」持っていくためのきっかけになります。 また、理解者、協力者自身にとっても今後求められるであろう包摂型社会の一員として「居場所」「出番」を持つことにつながってきます。
事業実施後の展望や新たに見えてきた地域課題	事業実施後というよりは日頃の活動のなかで見えてきたことですが、今年度から施行された生活困窮者自立支援法等の制度設計の重要さはいうまでもありませんが、それを下支えしていく市民ひとりひとりの意識のあり方も重要であると実感しています。今回作成させていただいた web サイトとリーフレットを活用しながらより多くの理解者・協力者を増やし地道ながらも地域でのセーフティネットづくりに取り組んでまいります。
花王・ハートポケット倶楽部へ一言	申請させていただいた計画のなかで現段階では web サイト、リーフレットの完成に留まっておりますが、皆さまからのご支援を無駄にすることなく引き続き生活困窮者のセーフティネットづくりに尽力してまいります。 ご支援いただけたこと改めて深く御礼申し上げます。
自己評価 (いずれかに ○ を記入)	D. その他（目標を達成するためのツールを作成、それを今後活用していく。）

ご存知ですか？ 生活困窮者のこと

路上で生活を送る人たち「ホームレス」は一般的に知られてきました。しかし、様々な背景のもと住まいはあっても経済的困窮状態で食べるものがないなど、身近に頼れる人、相談できる人がいないなど孤立状態にある人たちのを広い意味で生活困窮者といいます。このような「見えない貧困」は今や特別なものではなく身近なところでみられるようになってきました。

困窮者の行き場を失くさない 確実な支援を目指して

まごころねとわーくは2004年から茨城・水戸周辺のホームレスの自立支援活動に携わってきました。それを通して、ホームレスが「自立」後に再び路上に戻ることなく、社会のなかで生き続けるためには、仕事や生活の訓練、あるいはコミュニケーションスキルの習得が必要不可欠だということを痛切に感じました。
これらの経験を生かし「行き場を失くさない」「路上に戻さない」をモットーに、私たちは生活困窮者の確実な自立支援を目指します。



「行き場を失くさない」
「路上に戻さない」

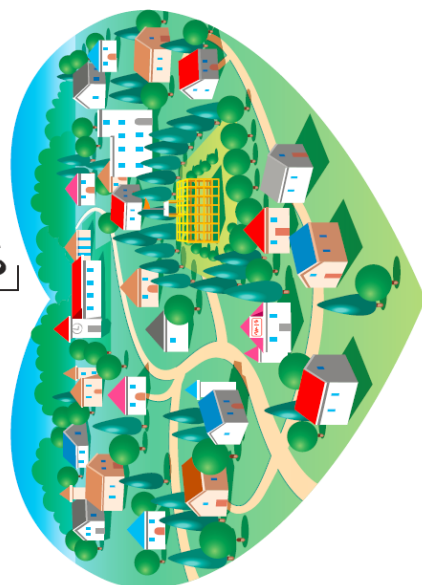


お問い合わせ

特定非営利活動法人

まごころねとわーく

TEL.FAX 029-275-4407



特定非営利活動法人

まごころねとわーく

ご案内

<http://www.magokoro.net>

社会へ向けて



生活困窮者への偏見をなくし、知識・理解を深めるために、学習会などのイベントを実施しています。

他団体との連携



県内のNPOやボランティア団体、地域団体、社会福祉協議会、あるいは県外の生活困窮者支援団体と連携し、より効果的な支援をめざします。

活動にご協力ください

● まごころねっとわーくの会員に
私たちはいっしょに活動をしていただける会員を募集しております。会員のみみなさんには食糧・日用品支援事業、各種イベントなどをお知らせします。

【年会費】 一般 12,000円
学生 6,000円
団体 10,000円

● まずは気軽ににご参加を

少しでも興味のある方は気軽にご連絡ください。食糧支援・イベントや「ちあきの家」利用者との内職への参加。自立生活後の住まい訪問など、さまざまなボランティアの場があります。

● 食糧・活動資金の寄付
食糧や資金のご寄付は、活動の大切な財産となります。ご協力をお願いいたします。

食糧・日用品支援



厳しい路上生活の＜今日＞を生きるため、月に数回程度の食糧支援活動をおこなっています。栄養バランスを考えたお弁当をはじめ、季節や行事にも合わせた手作りの食事を提供します。また、ひとりひとりとコミュニケーションをとりながら、必要な日用品も配布しています。また、他



機関や他団体の要請等に応じて緊急性の高い困窮世帯への支援も実施しています。

自立支援



確実に自立する意志をもった当事者に就労(訓練)の場をコーディネートし、送迎や昼食用のお弁当などを準備、サポートします。職業のスキルや意識を習得するとともに、自分の住まいを獲得し、持続的な自立生活を実現させるための第一歩となります。

自立生活後のケア



当事者の多くは自立しても孤独な生活を強いられ、それが再び路上に戻ってしまう大きな原因になっています。そこで、病院や介護施設などを含め、自立後の住まいを訪問し、持続的な自立生活の為のケアをおこなっています。

共同生活支援施設 ちあきの家

まごころねっとわーくではひたちなか市内に共同支援施設「ちあきの家」を設け、次の4つのステップを軸としたグループ生活を通して、確実に持続的な自立・社会復帰を目指します。

1 相談・保護

行政機関などから相談を受け、本人の健康状態や自立に向けた意思を確認し、必要事項を基に話し合い、最終的に入居となります。

2 ともに暮らす

入居後、グループ生活に入ります。保護に至るまでには様々な経緯や背景がありますが、スタッフも含めてともに暮らすからこそ見えてくる自立に向けた課題を把握するのがこの段階です。

3 生活習慣・職業訓練

家事等を通して、日常生活で自立するうえで必要なスキルを身につけます。また、職業訓練等の場をコーディネートすることで、就職したあとの継続的な勤労のための責任感やテクニクを習得します。

4 自立に向けて

ステップ1～3を経た上で、ようやく本格的な就職活動や生活視点の確保を目指します。自立支援の最終段階です。



「行き場を失くさない」
「路上に戻さない」



まごころ
ねっとわーくとは？

About



ちあきの家

Chiaki no ie



その他の取り組み

Other acts



活動に
ご協力ください

Solicit for support



まごころな
日々

BLOG

お問い合わせ



特定非営利活動法人

まごころねっとわーく

TEL.FAX 029-275-4407

ご存知ですか？生活困窮者のこと。

路上で生活を送る人たち「ホームレス」は一般的になってきました。しかし、様々な背景のもと住まいはあっても経済的困窮状態で食べるものに困っていたり、身近に頼れる人、相談できる人がいないなど孤立状態にある人たちを広い意味で生活困窮者といえます。このような「見えない貧困」は今や特別なものではなく身近なところでみられるようになってきました。

「困窮者の行き場を失くさない」 確実な支援を目指して。

まごころねっとわーくは2004年から茨城・水戸周辺のホームレスの自立支援活動に携わってきました。それを通して、ホームレスが「自立」後に再び路上に戻ることなく、社会のなかで生き続けるためには、仕事や生活の訓練、あるいはコミュニケーションスキルの習得が必要不可欠だということを痛切に感じました。

これらの経験を生かし「行き場を失くさない」「路上に戻さない」をモットーに、私たちは生活困窮者の確実な自立支援を目指します。

< <http://magocoro.net/> >